里山ぐらし今むかし

コロナ禍でも大切にしたい都会とのつながり。自由に集える日が待たれます。

新型コロナ騒動が始まったのは令和二年の春。それから二年弱が過ぎ、コロナ禍での米づくりも二回目を終えました。豊かな自然に囲まれて暮らしている私たちは、感染予防のために避けなければならない「密」とは、縁がありません。でも、暮らしや町の様子には変化がありました。

米づくりへの影響

昨年から、家庭での米の消費量が少し増えているそうです。これは巣ごもり消費によるものですが、その一方、外食での需要の落ち込みが大きくて、全体としてみると消費量は減少。その影響は、吉川にも現れました。外食用の米は価格が下がり、また、売り先がないままに在庫が増え、業務用の米を栽培してきた農家を悩ませています。

じつは、それ以上に悩ましいのは酒米の生産です。吉川は五百万石や山田錦など、酒米の一大産地ですが、日本酒そのものの消費が大きく減ってしまったため、今年は酒米の栽培を止めざるを得なかった農家が少なくありません。

ありがたいことに、永田米研究会のメンバーは、今年も例年どおりの米づくりを続けました。これは、私たちのお米を選んでくれるみなさんがいるからこそのことだと思っています。

静けさが増した日々

もともと、私たちの暮らしは静かなものですが、コロナ禍では、その静けさが増しました。例えば、これまでは田植えや収穫の時期に、小中学生がバスを連ねて体験学習に来ていましたが、全て中止。田んぼで大騒ぎする子どもたちの姿は、なんとも微笑ましいものなのに……。

吉川に限らず、農村に人が増えて活気が戻るのは、遠方で生活している子どもが田植えや収穫の手伝いに来るときと、親族が集まる盆と正月でしょう。わが家は、長男が近くに住んでいるので、農作業の風景はいつもと変わりません。けれど、一人ではできない田植え作業に、都会にいる子どもや身内の助けを得ていた農家は、この二年間は隣り近所で協力して作業を進めたと聞きました。昔は、みんなそうでしたから、意外と苦労はなかったようですね。

盆と正月も、集まり事もなく、みんな静かに過ごしたのではないでしょうか。

私が不安に思ったのは、町が都会の人々との間で培ってきた「つながり」が途切れてしまうこと。農作業を手伝いに来るグループや、田植え体験の子ども、酒まつりに集まる酒好きの人など、つながり方は様々ですが、これからも、そのつながりが続くようにと願わずにいられません。

無病息災を祈りつつ

最近は、感染予防をしながらも、いつもの生活が戻ってきています。どこも同じでしょうか？

氏神である八幡宮では、春祭りのお神楽奉納は止めざるを得なかったものの、夏の大祓には、私が家々をまわって、氏子それぞれの紙の人形（ひとがた）を集めて、宮司さんに汚れを清め

よしかわ便り

たなだ

No.78
11
2021

棚田の手作業

機械では刈りきれない

棚田は四角くない。一枚一枚が小さくて不定形。
だから、コンバインがあちらこちらを刈り残す。
「仕方ないよ」と田んぼの主は手で稲を刈り、脱穀をする。

今月の健菜米づくり

新米の味はいかがでしたか。今年の健菜米は外観品質と食味値が例年以上に高くなり、生産者一同、ホッとしています。

私の田んぼは、藁をすき込んで耕起する秋打ちを終えました。だから今は土色一色。一方、水を入れ代掻きを終えた大賀集落の冬水たんぼは、秋空や草紅葉が水面に映って、色彩豊かです。

豆類の収穫も終わりました。暖かい日が多くて、大根の収穫は早まりそうです。小紙発行の頃は、天日に干し、沢庵漬けをつくり始めていることでしょう。もう初雪が降っているかもしれません。そろそろ、家を板で囲い、植木に雪囲いをするなど、冬支度を始めます。

てもらいました。どんな時でも、というか、こんな時だからこそ、無病息災を祈る神事をないがしろにはできません。

緊急事態宣言が開けた一〇月一〇日は、尾神岳でパラグライダーの大会が開催され、大盛況だったそうです。大会当日だけでなく、最近は、吉川の空を飛んでいるパラグライダーの数が増えました。

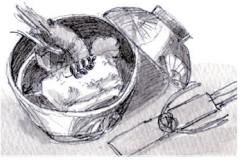
さて、令和四年のお正月には、わが家に、二年ぶりに親族が集まれるかどうか……。会いたい人に自由に会い、酒を酌み交わせる日が待ち遠しいものです。

【話／中村昭一】

【販売品のご案内】

「〆張餅」

希少な糯米「しめはり」のお餅で、新年を迎えませんか。「しめはり」は、栽培がむずかしく、昭和初期に絶滅したと言われた品種。「幻」とまで言われたもち米を、中村昭一さんが永田農法で復活させました。杵で搗き、昔ながらの製法でつくった餅は、粘りがあって、香りがよい逸品です。



①白もちセット…白餅30個
（5個入×6袋）
②色もちセット…色餅30個
（白、よもぎ、豆、しそ、きび、胡麻、各5個入）　※各1袋235g

■価格：5724円（税・送料込）
■申込締切日：12月9日（木）
■お届け／12月下旬
※すでにカタログでご注文いただいている方は、今回、再度のご注文の必要はありません。

◆お申し込みは健菜倶楽部 事務局まで　0120-201-371（平日10時～18時）

文明人が見失っていた、おいしさと栄養価。
健菜倶楽部
http://kensai.co.jp/

発行／株式会社健菜　〒151-0061 東京都渋谷区初台 1-47-1
小田急西新宿ビル　TEL 0120-201-371
編集／永田米研究会　新潟県上越市吉川区